

Close up だて

— 伊達市の魅力を たくさんの人に伝えたい —

やま だ み わ
山田美和さん
(長和町)

近

年、インターネットは多くの人にとって身近なものになりました。その1つに数えられるソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）は、今や人と人をつなげる手段として大きな役割を果たしています。

特に、Facebook（フェイスブック）は、全世界で約11億人の利用者がいると言われてます。皆さんも1度は目にしたことがあるのではないのでしょうか。

このフェイスブックを利用して情報発信を行っているのが、だて観光協会の特派員である山田美和さんです。きっかけは、「広報だての特派員募集の記事を見て。友人も特派員だったこともありすぐに応募しました」とのこと。

投稿するコツをうかがうと「普段の生活の中で目にした風景などを投稿しています。身近にある市

の魅力を市内外の皆さんに知ってもらいたい」と柔らかく微笑みながら答えてくれました。

読者の立場で考え、「どうすれば読んでもらえるか」を心掛けている山田さん。できるだけ写真を掲載し文章は短くするなど工夫を凝らした発信をしています。

「多くのイベントに参加しましたが、伊達市は農業・漁業のまちであることを改めて実感しました。食の宝庫ですね」と特派員としての活動を通して、伊達市の魅力を再発見したそうです。

住んでいる私たちにとってはあたり前になっている風景でも、魅力的なものはまだまだ隠れているのかもしれない。

「今後も積極的にイベントなどに参加して、伊達市の『良さ』や『活気』を伝えていきたいです」と熱い意気込みも話してくれました。



特派員として発信している観光協会のフェイスブック



今年の「食フェス」では司会を担当しました

表紙のはなし



11月のある晴れた日。開拓記念館の庭でエゾリスを発見。落ち葉を掘って、これからが本冬の冬に備えて食べ物を探していた様子。そこをカシャッと写すと、驚いたようにジッとカメラを見つめていました。動きの速いリスは、道路に飛び出すことがあります。近くを通るときには、注意くださいね。

楽 画 記

■私が子どもの頃から慣れ親しんでいた言葉は、若い(た)さんには伝わらない事が多くあります。例えば「アノラック」や「コールテン」。冬の寒い時期に活躍する防寒着と厚手の布の事ですが、今では使わない言葉のようです。大昔と現在の言葉が違うのは、こういった小さい変化の積み重ねなのかと1人で納得しました。(や)

■今月の表紙はリス。もふもふの毛皮に可愛らしい仕草で、冬に向けて木の実を備蓄するその姿は愛らしくもあり、自身に合い通じるものが…。木の実を土の中などに蓄えるリスと寒さとともに増えていく私の何か。木の実を森を作りますが、私の備蓄は何の役にも立ちません。(と)

■先日、伊達高校の生徒が職業体験に訪れました。市役所を選んだ理由を聞いてみると「将来、市役所で働きたい」とのこと。自分が学生の時は、「漁師」の仕事を体験したことを思い出しました。選んだ理由は、「みんなより早く終わるから」。何も考えていなかった過去の自分が恥ずかしくなりました。(笑)(た)

発行・編集

伊達市企画財政部企画課
〒0142-23-3331 内線238・239

TEL 0142-23-4414
FAX 0142-23-4414
E-mail kouhou@city.iwate.hokkaido.jp
〒052-0024 北海道伊達市鹿島町20番地1

として保存しましょう